

令和7年度 第10回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和8年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

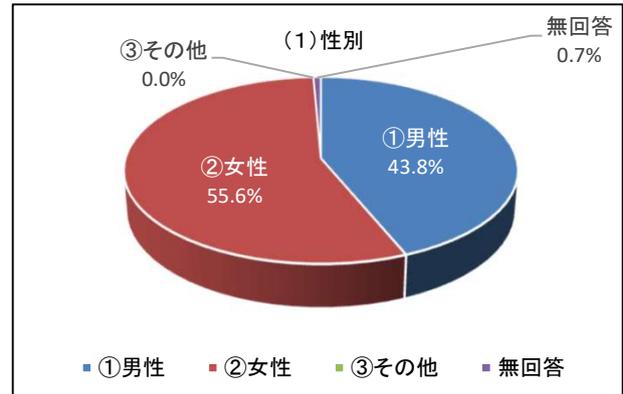
- 1 調査課題名
食の安全安心及び食育に関する意識調査
- 2 調査の目的
岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。
- 3 調査期間
令和8年1月14日（水）から1月28日（水）まで
- 4 調査方法
調査紙郵送及びインターネット
- 5 調査対象
令和6、7年度希望郷いわてモニター 200名
- 6 回答者数
144名
- 7 回答率
72.0%

II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

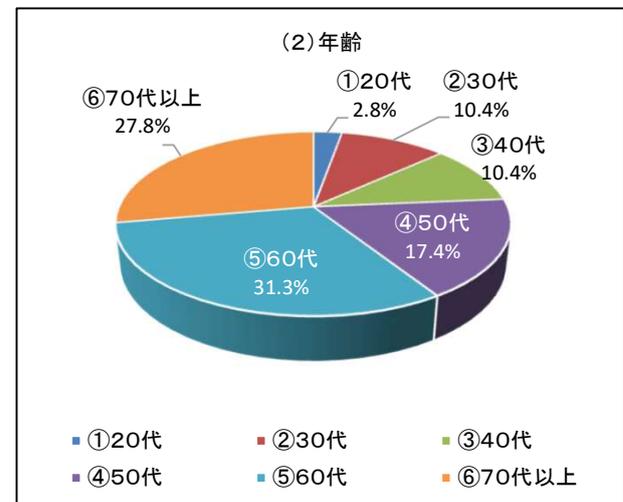
(1)性別

①男性	63
②女性	80
③その他	0
無回答	1
計	144



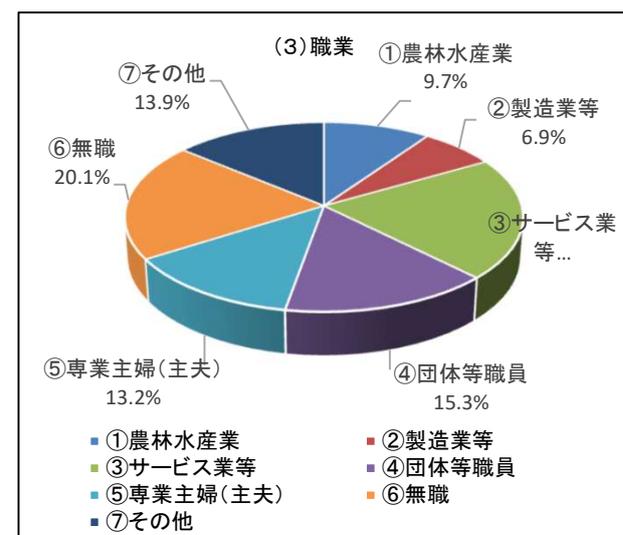
(2)年齢

	合計	男性	女性	無回答
①20代	4	2	2	0
②30代	15	4	10	1
③40代	15	8	7	0
④50代	25	7	18	0
⑤60代	45	23	22	0
⑥70代以上	40	19	21	0
計	144	63	80	1



(3)職業

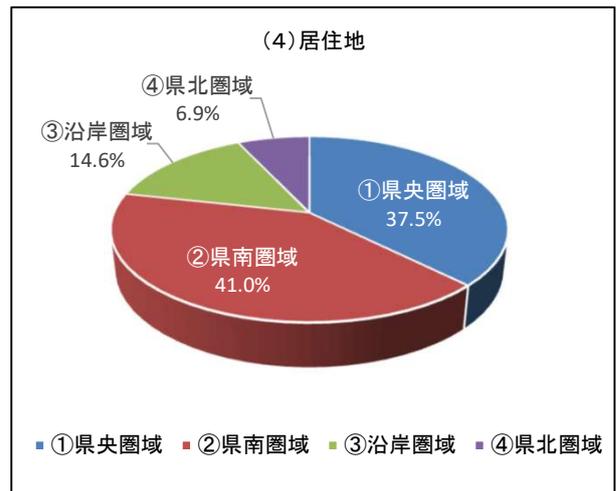
	合計	男性	女性	無回答
①農林水産業	14	5	9	0
②製造業等	10	7	3	0
③サービス業等	30	8	22	0
④団体等職員	22	10	12	0
⑤専業主婦(主夫)	19	2	17	0
⑥無職	29	22	6	1
⑦その他	20	9	11	0
無回答	0	0	0	0
計	144	63	80	1



※「その他」の内訳: 自営業、学生、パート、医療従事者、建設業 等

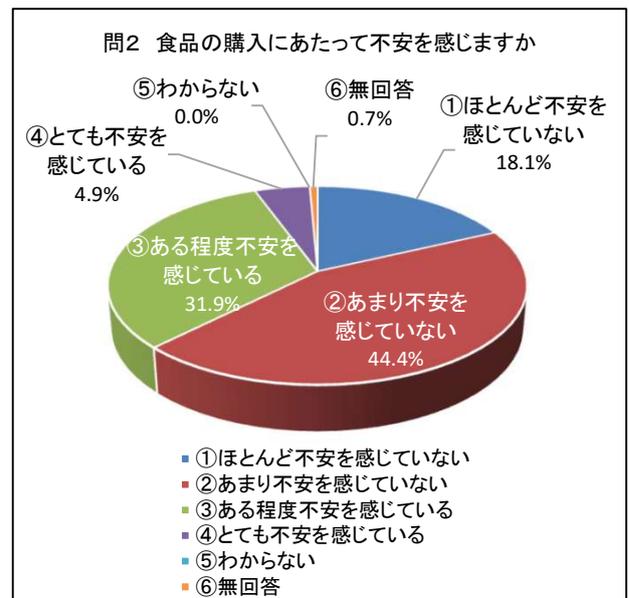
(4)居住地

①県央圏域	54
②県南圏域	59
③沿岸圏域	21
④県北圏域	10
計	144



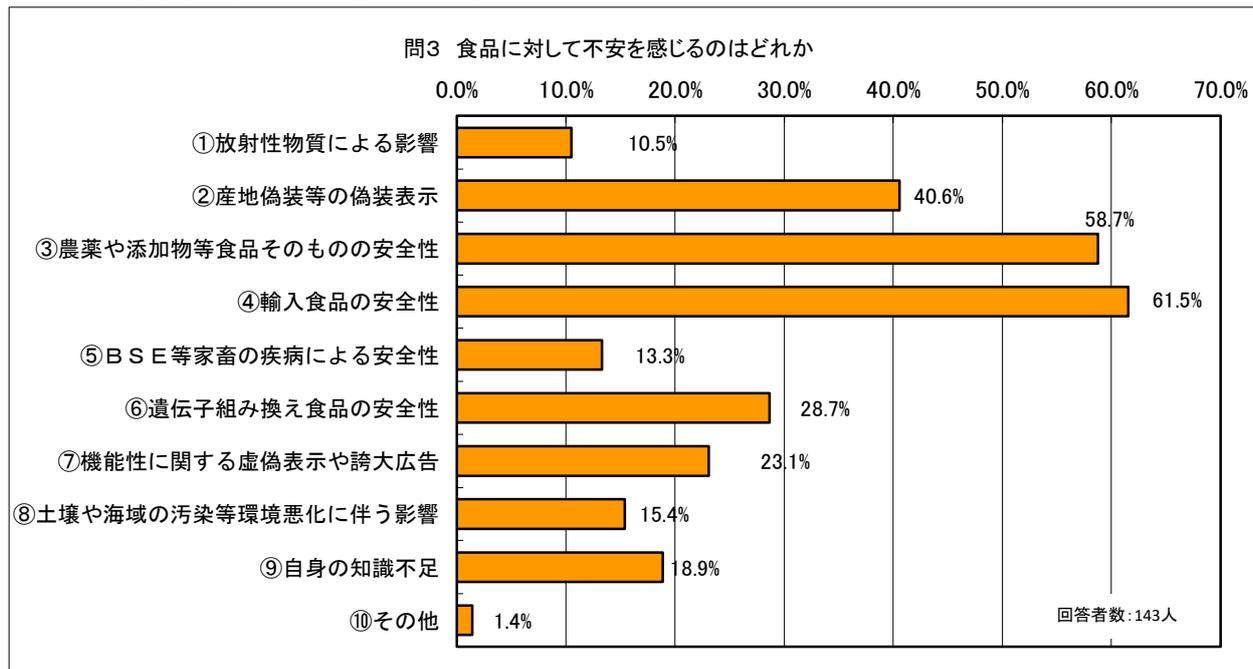
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	26
②あまり不安を感じていない	64
③ある程度不安を感じている	46
④とても不安を感じている	7
⑤わからない	0
⑥無回答	1
計	144



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は36.8%であり、不安を感じない人の62.5%を下回っている他、前回(令和7年3月調査。以下同じ)の44.5%から減少している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

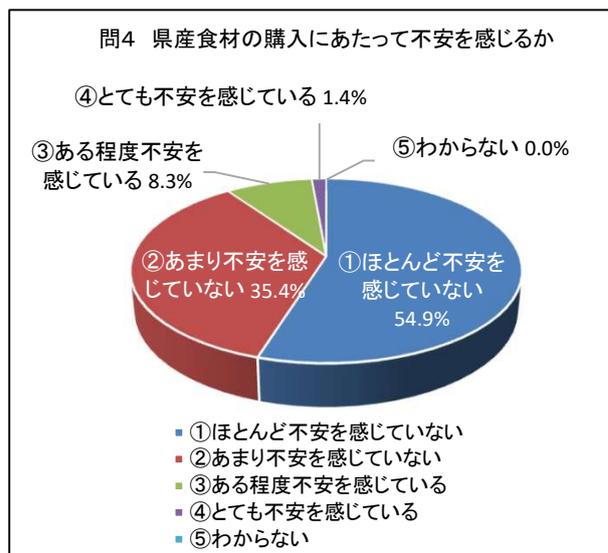


※「その他」の主なもの: 価格高騰による経済不安

不安を感じる理由は、「④輸入食品の安全性(61.5%、前回56.6%)」が最も多く、次いで、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(58.7%、前回60.8%)」、「②産地偽装等の偽装表示(40.6%、前回34.3%)」の順に多かった。

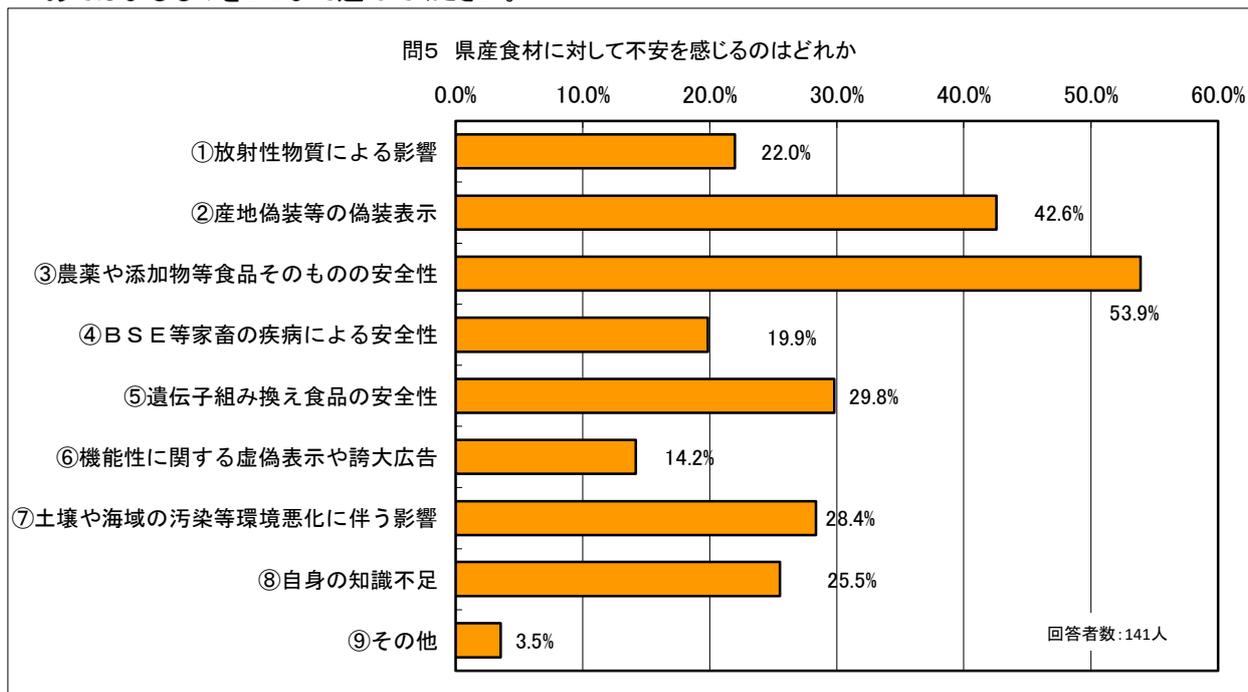
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	79
②あまり不安を感じていない	51
③ある程度不安を感じている	12
④とても不安を感じている	2
⑤わからない	0
計	144



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は9.7%(前回8.5%)となっており、不安を感じない人の90.3%(前回91.5%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

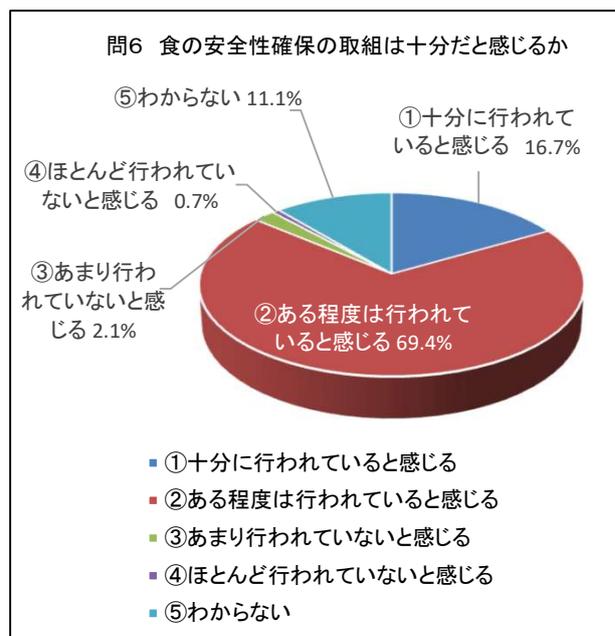


※「その他」の主なもの: 価格高騰、気候変動や自然災害等による収穫量の減少等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(53.9%、前回57.1%)」が前回調査と同様に最も多く、次いで「②産地偽装等の偽装表示(42.6%、前回40.4%)」、「⑤遺伝子組み換え食品の安全性(29.8%、前回27.3%)」、の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

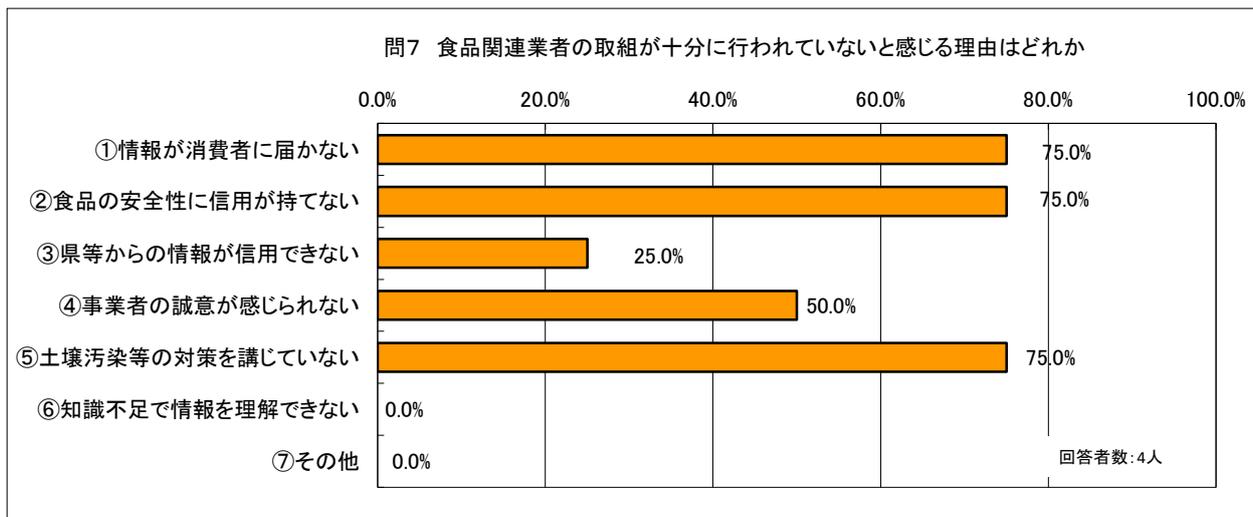
①十分に行われていると感じる	24
②ある程度は行われていると感じる	100
③あまり行われていないと感じる	3
④ほとんど行われていないと感じる	1
⑤わからない	16
計	144



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、86.1%(前回83.7%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

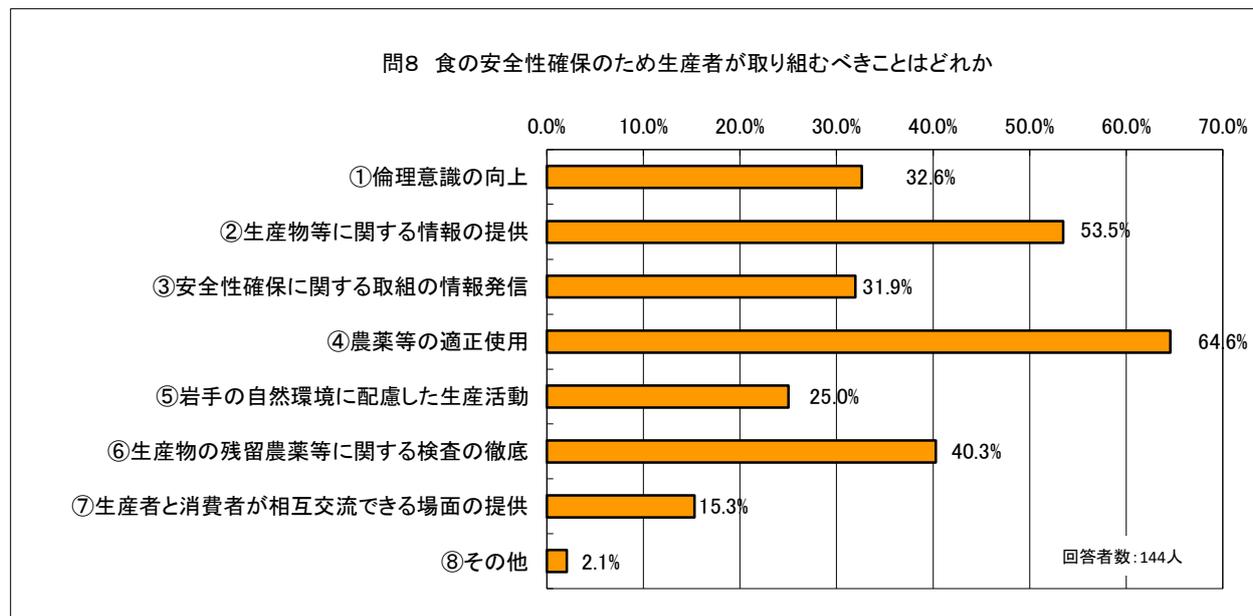
問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



安全性確保の取組が十分ではない理由は、「①情報が消費者に届かない(75.0%、前回66.7%)」、「②食品の安全性に信用が持てない(75.0%、前回50.0%)」、「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(75.0%、前回41.7%)」が最も多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



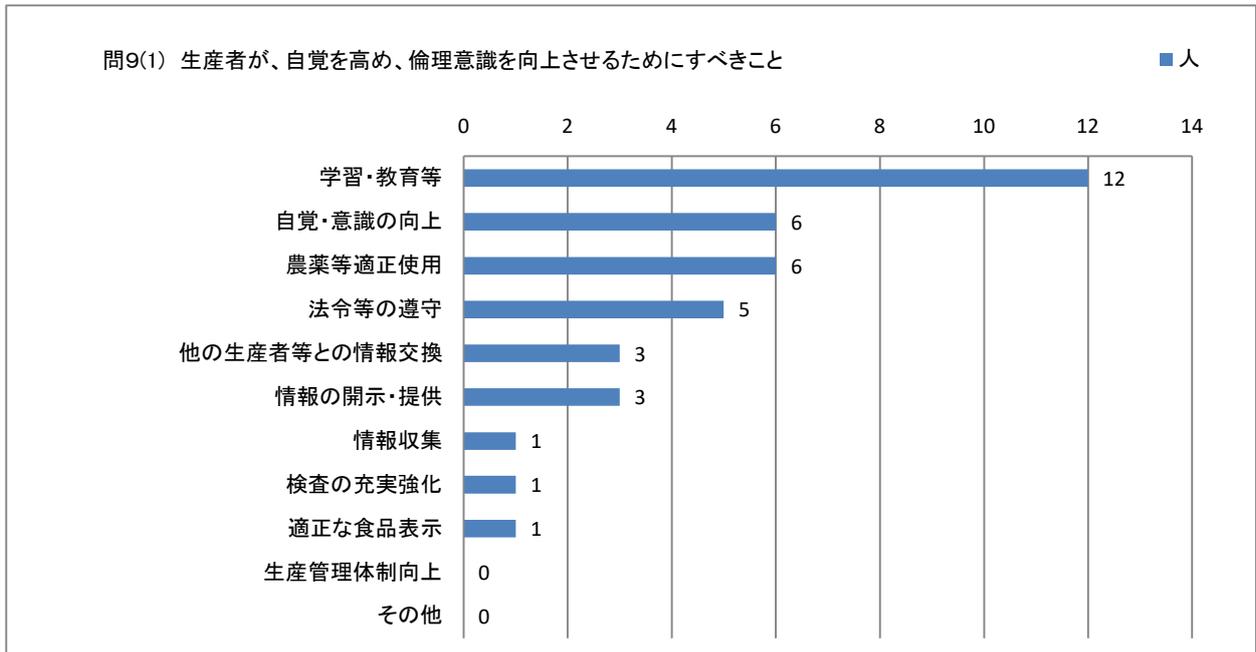
※「その他」の主なもの: 小学生等を対象とした食品の製造過程の見学 等

県民が求める生産者の取組は、「④農薬等の適正使用(64.6%、前回57.4%)」が最も多く、次いで、「②生産物等に関する情報の提供(53.5%、前回58.0%)」、「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(40.3%、前回41.4%)」の順に多かった。

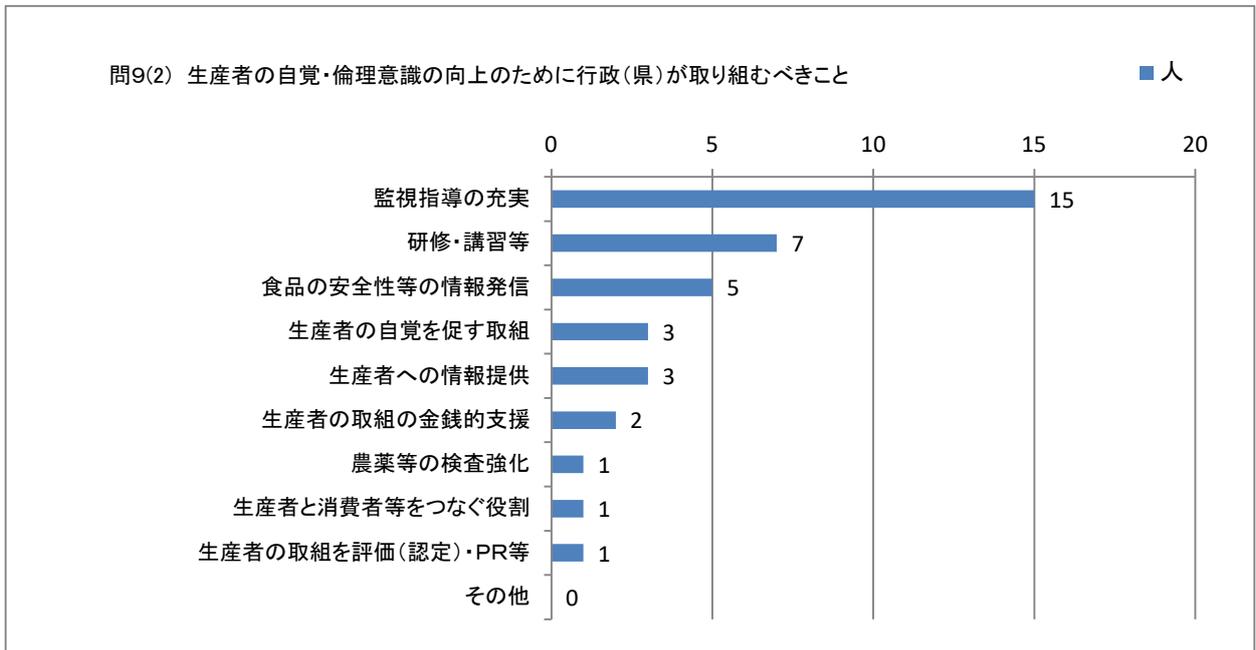
問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと

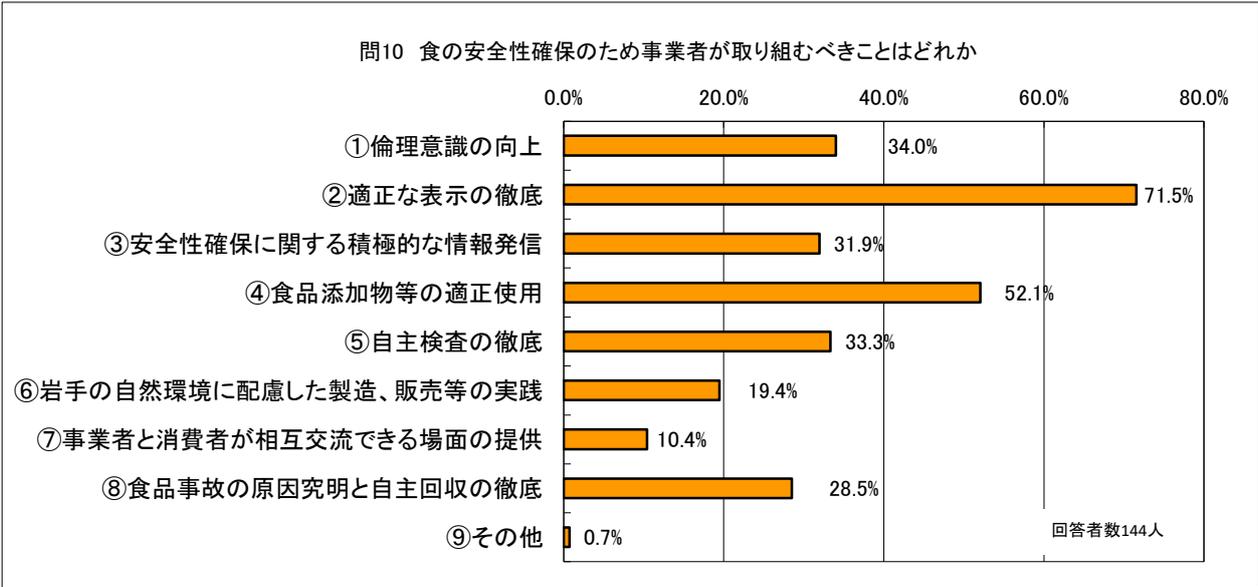


(2) 行政(県)が取り組むべきこと



生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、「学習・教育等」に関すること(12人)が最も多く、行政(県)が取り組むべきこととしては、「監視指導の充実」に関すること(15人)が最も多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

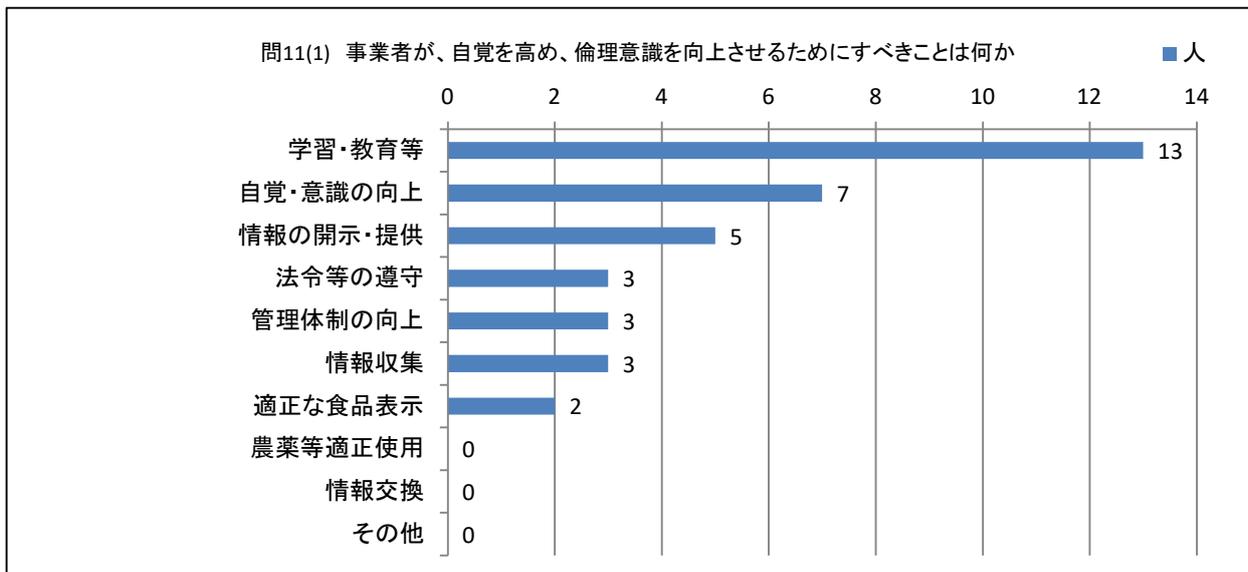


県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底(71.5%、前回64.2%)」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用(52.1%、前回53.3%)」、「①倫理意識の向上(34.0%、前年度26.1%)」の順に多かった。

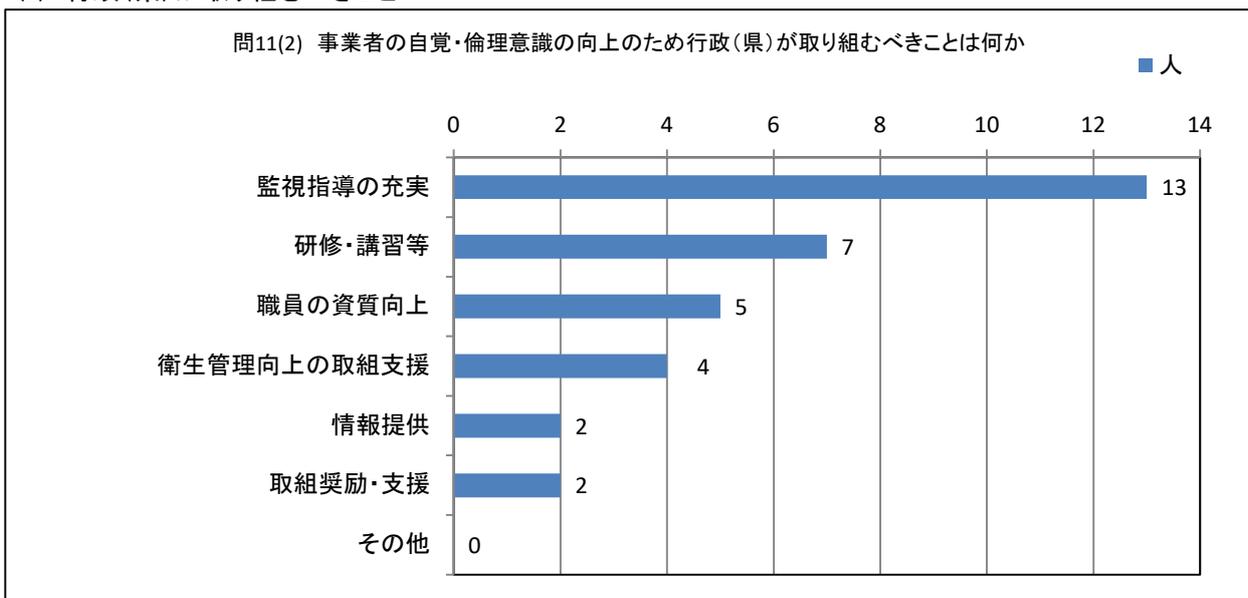
問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きます。

あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと

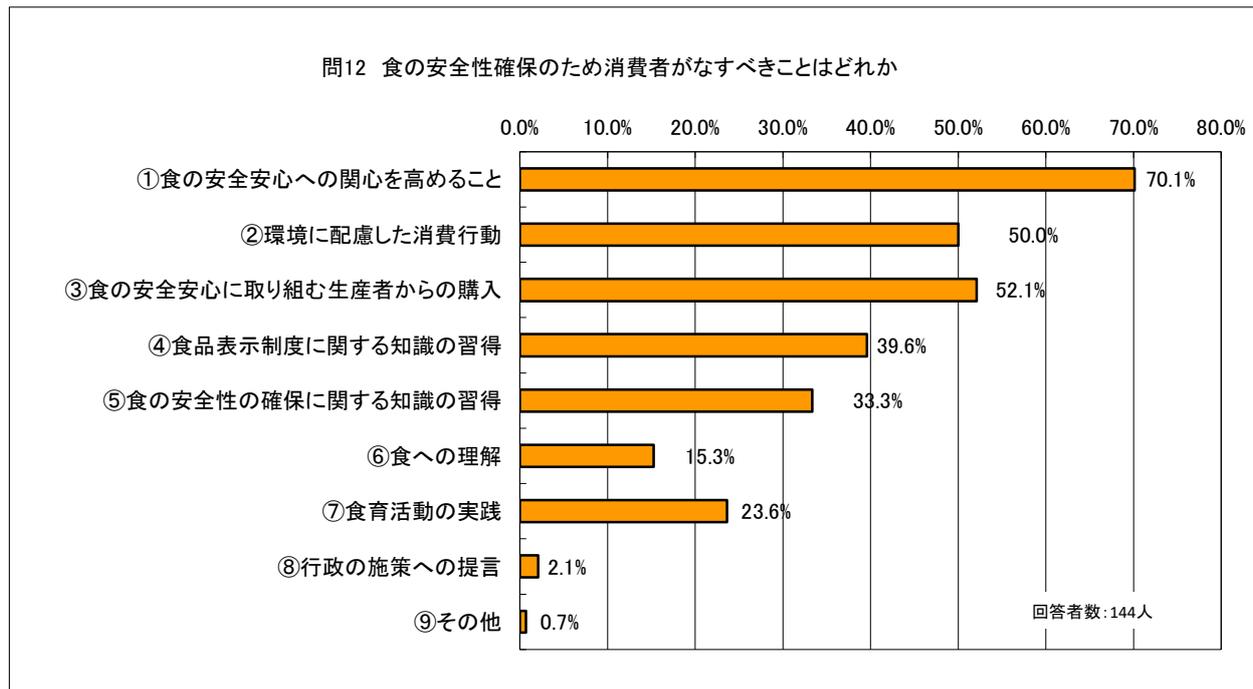


(2) 行政(県)が取り組むべきこと



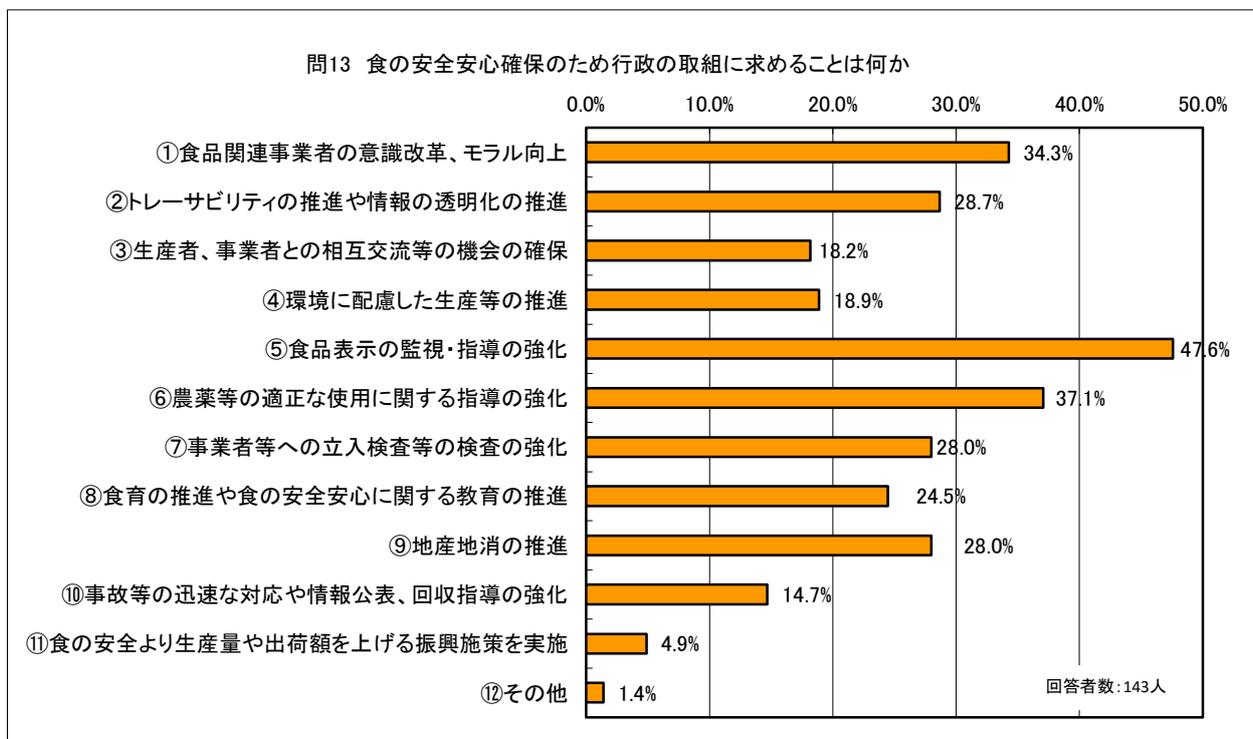
事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、「学習・教育等」に関すること(13人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、「監視指導の充実」に関すること(13人)が多かった。

問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



消費者がなすべき取組としては、「①食の安全安心への関心を高めること」(70.1%、前回64.8%)が最も多く、次いで「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(52.1%、前回47.3%)」、「②環境に配慮した消費行動(50.0%、前回47.9%)」の順に多かった。

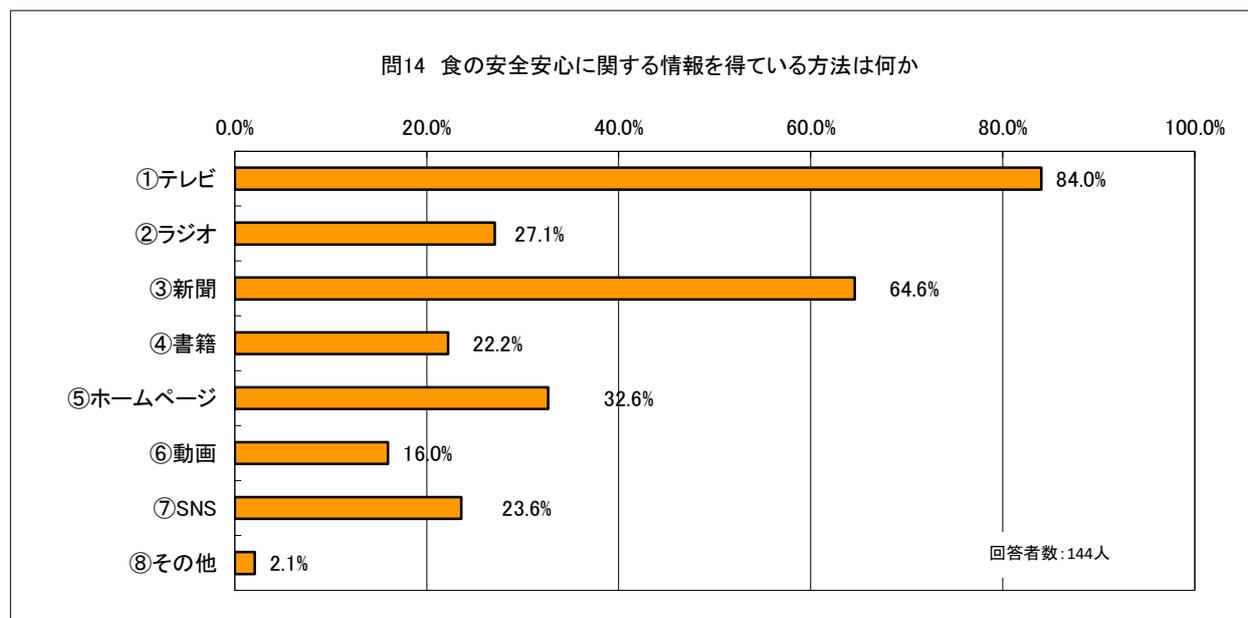
問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 本質的な農業・漁業に対する安定的な資本供給 等

行政の取組に求めることは、「⑤食品表示の監視・指導の強化(47.6%、前回39.4%)」が最も多く、次いで、「⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(37.1%、前回33.9%)」、「①食品関連事業者の意識改革、モラル向上(34.3%、前回43.0%)」の順に多かった。

問14 あなたが日頃、食の安全安心に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

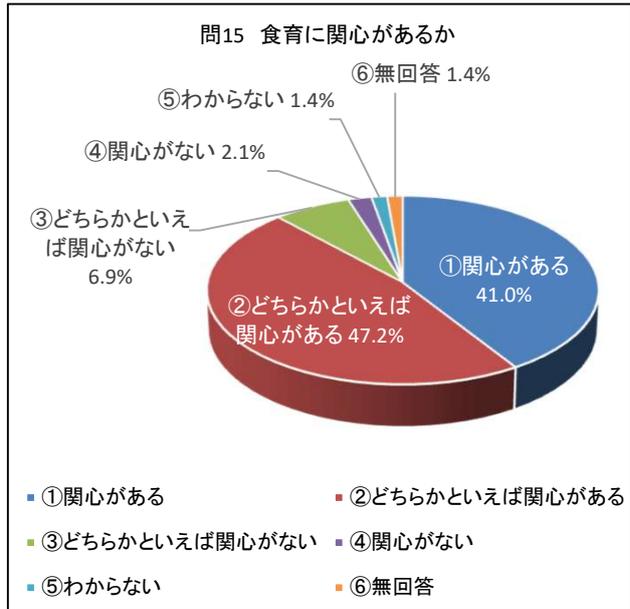


※「その他」の主なもの：自治体が開催する勉強会・イベント、知識のある友人・知人から等 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(84.0%、前回80.7%)」が最も多く、次いで「③新聞(64.6%、前回63.9%)」、「⑤ホームページ(32.6%、前回33.7%)」の順に多かった。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

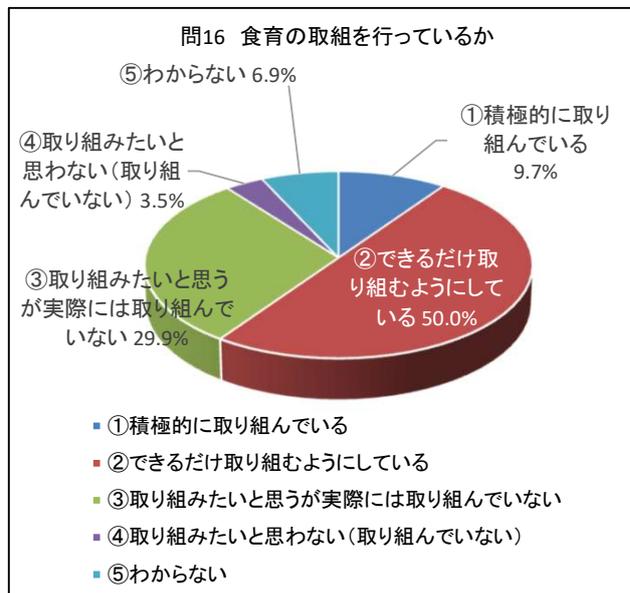
①関心がある	59
②どちらかといえば関心がある	68
③どちらかといえば関心がない	10
④関心がない	3
⑤わからない	2
⑥無回答	2
計	144



食育に関心がある人は88.2% (前回89.8%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

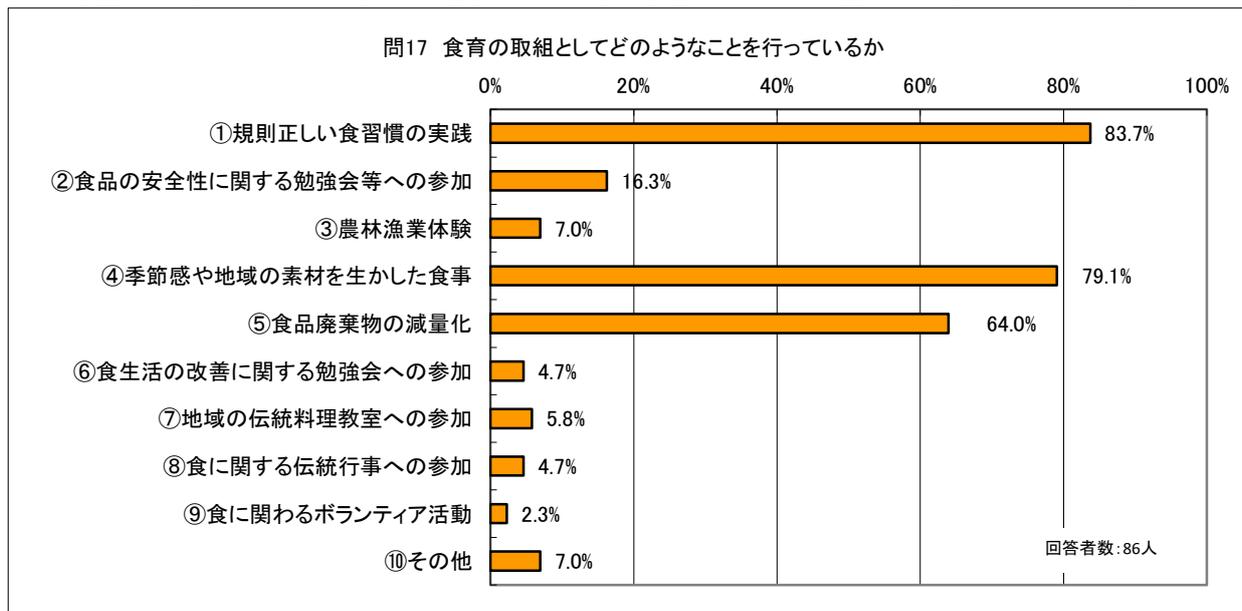
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	14
②できるだけ取り組むようにしている	72
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	43
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	5
⑤わからない	10
計	144



食育の取組を行っている人の割合は59.7% (前回53.6%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が29.9% (前回38.6%)であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

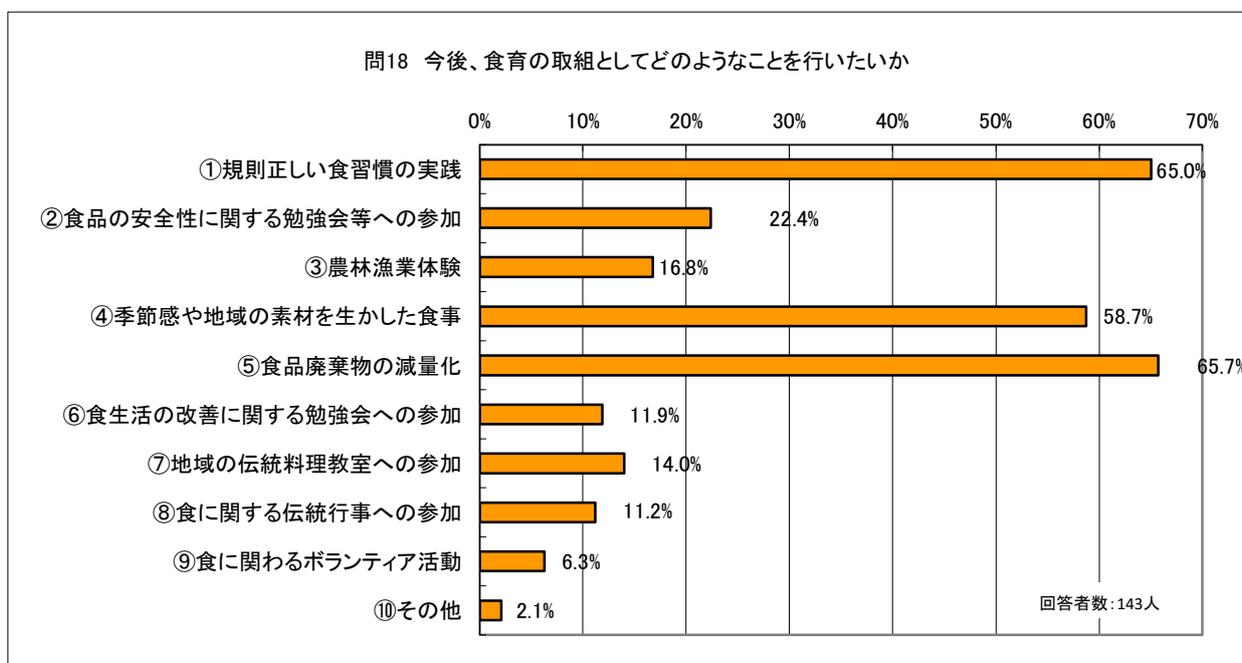
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 身近に作れるおかずの提案の小誌を発行する、広報等を通じて減塩や原料の知識を得て実践する 等

食育の取組として行っていることは、「①規則正しい食習慣の実践(83.7%、前回83.3%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の素材を生かした食事(79.1%、前回68.9%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(64.0%、前回65.6%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

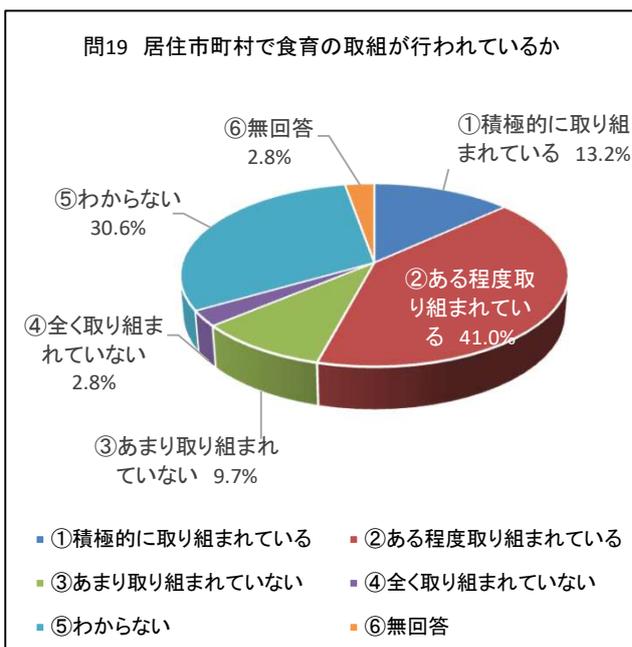


※ 「その他」の主なもの: 広報等を通じて減塩や原料の知識を得て実践する 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「⑤食品廃棄物の減量化(65.7%、前回66.1%)」が最も多く、次いで「①規則正しい食習慣の実践(65.0%、前回60.6%)」、「④季節感や地域の素材を生かした食事(58.7%、前回58.8%)」の順に多かった。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

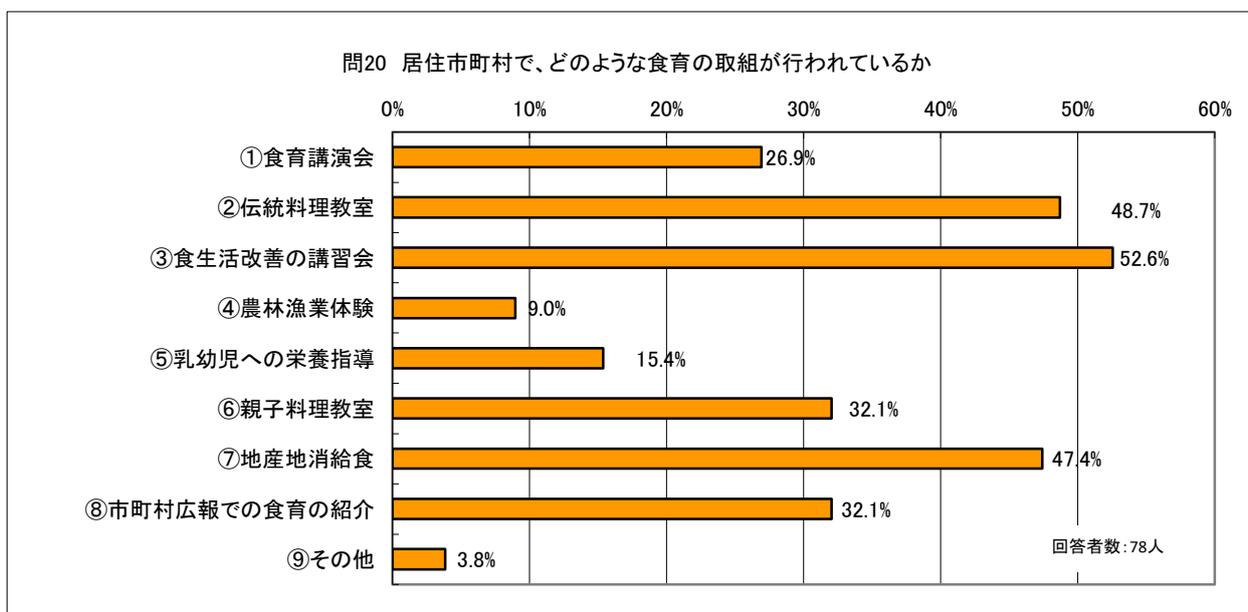
①積極的に取り組まれている	19
②ある程度取り組まれている	59
③あまり取り組まれていない	14
④全く取り組まれていない	4
⑤わからない	44
⑥無回答	4
計	144



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は54.2%（前回54.8%）と前回とほぼ同様であった。また、取組の有無が分からないという回答は30.6%（前回28.9%）と前回より増加した。

問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きします。

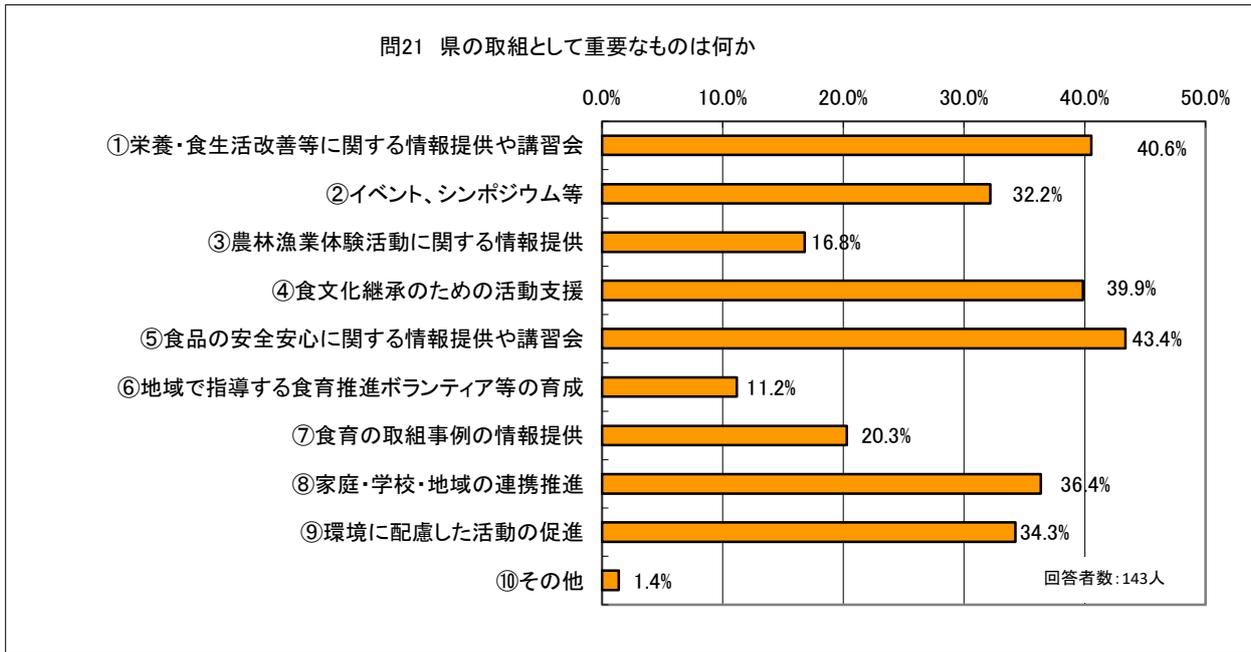
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※ 「その他」の主なもの: 子ども食堂、いわて純情むすめによる活動 等

居住市町村の食育の取組内容は「③食生活改善の講習会(52.6%、前回57.6%)」が最も多く、次いで「②伝統料理教室(48.7%、前回44.6%)」、「⑦地産地消給食(47.4%、前回55.4%)」の順に多かった。

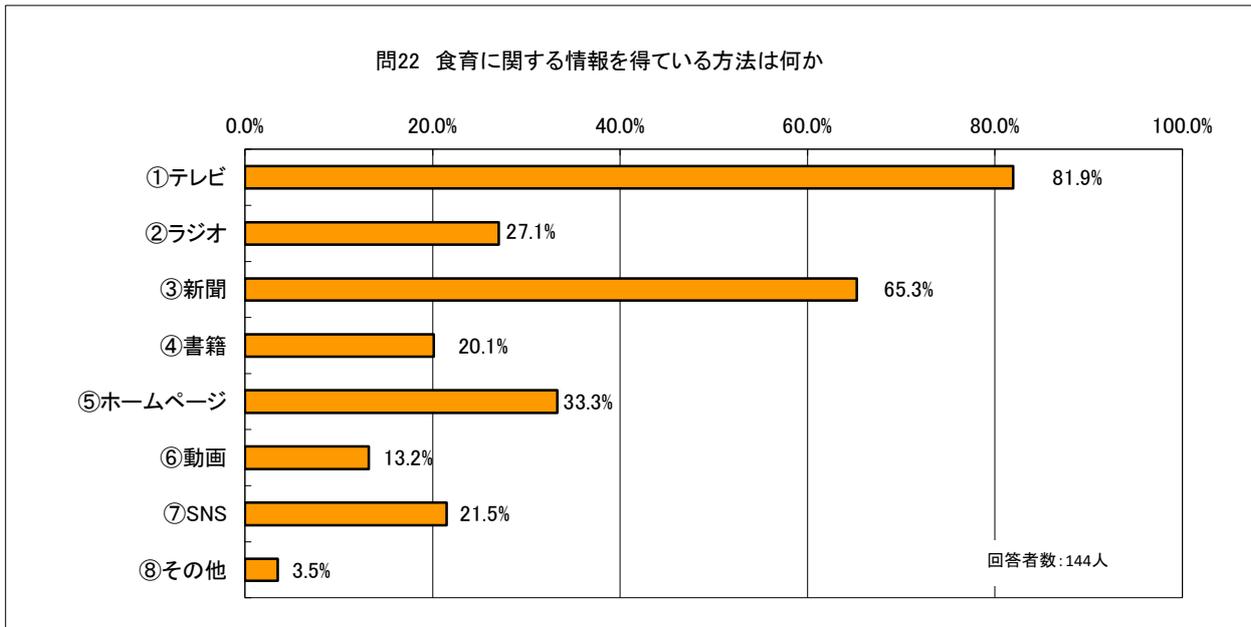
問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 地産地消の推進 職員の意識改革 等

県の取組として重要なものは、「⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(43.4%、前回37.0%)」が最も多く、次いで「①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(40.6%、前回41.2%)」、「④食文化継承のための活動支援(39.9%、前回43.0%)」の順に多かった。

問22 あなたが日頃、食育に関する情報を得ている方法は何か。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 地域の方々、知識のある友人・知人との交流、市町村広報紙 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(81.9%、前回78.3%)」が最も多く、次いで「③新聞(65.3%、前回64.5%)」、「⑤ホームページ(33.3%、前回30.7%)」の順に多かった。

問23 食の安全安心、食育について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	ニンニクを購入しようとスーパーに行くと、中国産の安いニンニクと青森県産の田子ニンニクが並んでいます。青森県産を買いますが、仕入れる際にも地元のものを大事にできないのでしょうか？産直に行くと、盛岡市産や八幡平市産のニンニクが買えますが、産直まで遠く、チーズなども盛岡産の美味しいものがあります。地元の食材をもっと利用したいです。
2	国、県並びに各市町村を挙げて食の安全安心と食育に関する各種事業が展開されておりますが、特に、首長部局(農林水産、保健福祉)と教育委員会部局(学校教育、保健体育)と連携し、幼稚園や保育所に通う未就学児から小学生までを対象とした食の安全安心に関する教育を拡充させる必要があると感じます。出前講座や授業の一環として、普段食にする野菜、コメの種からの成長過程において必要な肥料や農薬を用いた害虫駆除と食品の製造過程の見学などを通して、食の安全安心への興味が生まれ、総じて、食に対する有難みを享受できるのではないかと考えます。
3	食育については、核家族化が進み、女性が活躍する時代となり、手間を省いた食卓が人気となっている昨今。自分自身も便利な食事にあやかっているが、母親の味、家庭の味が薄れ、食品メーカーなどのタレの味で育つ子供が増え、郷土ならではの滋味ある食(舌)が消えるのではないかと危機感を少し感じる事がある。食の安全については、安価な輸入食材は家計を助け、季節外の食材も買えるのは嬉しいことだが、中国産との記載をみるとやや嫌厭してしまう事がある。国産、岩手産だから安心と安易に信じるのも違うのかもしれないが、何が食の安全なのかを考え出すと深すぎとお財布との相談を優先する事も多い。結果として、国が基準値を定め検査している、スーパーが適切に見極めて仕入れていると思われるから、恐らく致死量に達しない農薬量で大丈夫であろうと自分に言い聞かせ食材を買う自分がいる。 消費者も知識の向上が必要だが、出荷する農家と農協、または農家や漁師から直買いするディーラー、事業者が、何かしらのガイドラインを守った仕入れと販売をしてもらえる事が、消費者にとっては一番ありがたいと思うが、自己管理なしには安全を確保しにくいこともたしかである。個人差があり限定することはできないが、防腐剤、農薬を使っている食品などは、年間の許容目安(何個くらい食べると、健康に害を及ぼす等)があるなど、万人にわかりやすい目安がわかれば、安心して買い物ができるかもしれないと思った。
4	たくさんのごことを学ぶこと。
5	近年、食の安全安心が、食品内部だけではなく価格に移ってしまっています。購買可能、もしくは食品の生産活動に多大な影響を与えている一因が、自然の営みという生産過程ではなく、流通過程に起こる投機的作業によって展開されているように感じているのは、私一人でしょうか。ドラッカーの提案した、社会資本のマネジメントが、経営ではなく管理だけの方向に進んできているように思います。地域の経済的な貧富の差が、ますますグローバルに展開されて世界全体を包み込んだ不況が訪れるのではと思います。
6	食育は親子一緒に幼稚園の頃から勉強すべきだと思う。 食品ロスは一入暮らしの方が出る。材料を少しづつ使用した料理でも量が増える。既製品ばかりしていられなく困っています。
7	様々な媒体で様々な人が食品の安全性について言っているが、科学的に正しいのか、どの程度正しいのかわからないところが問題だと思う。食品の安全性について公平で冷静な評価を聞きたい。健康的な食生活についても同じように感じている。人によって何が良いか違ってくるのも悩ましい。
8	ここ3~4年の間に「子ども食堂」の話題が増えているが、子ども食堂を利用しないと食べられない子どもの親は、どういう生活をしているのか情報がほしい。働かないのか、働けないのか、どちらなのか。私が小さい頃からこのような状況だったのか、あるいは、最近の親の意識が変わっているのか疑問に思うところがある。
9	賞味期限を見たり、食べ残しをしないようにしています。料理が余った時は、味を変えられる物は変えたりして食べます。
10	食の安全安心については以前よりは意識が高くなり、作る側も消費者側も変わりつつあるように思います。食に関して意識をもって取り組むことで環境に対する活動も自ずからついてくるかと思えます。
11	生産者は農薬使用制限があるため管理はとても難しい。色々な努力していることを消費者は分かってほしい。米が高いというが経費管理等を考えたら決して高いほうではないと思う。

12	食育と言えば、幼児や児童、中高生など子どもの健康な成長のための知識で、大人にはあまり関係がないと感じていました。今回のアンケートを通して、食育は幅広く大人にも必要なものだと知ることができました。日頃より「国産品」「地産地消」を意識して購入しておりますが、安全であるとの前提(思い込み)で買っています。消費者として本当に安全なものなのか、日々アンテナを高くし関心を持って購入したいと思います。
13	保・幼・小・中時代が食育には大事な時期。給食指導などはとてもありがたい。
14	物価高の影響もあって、体に良いものと思っいても思うように購入できない状況が続いております。一日も早い物価安定を望みたいと思います。
15	戦後、慣行農業により「食」は豊かになったが、反面有機栽培や無農薬の農家は限られ、道の駅の産直に行っても、農薬をどの程度使っているか表示がなく不安を感じています。今の農薬は、洗っても簡単に取れないと聞きます。選択の時代でもあると思うので、きちんとした表示を求めるとともに、農薬を使っていない農家を支援すべきだと思っています。
16	以前に食生活改善推進員として活動したことがあります。講習会で学んだことは現在でも生活に活かされています。地産地消はもちろんですが、「身土不二」その土地で生きる人間の体にはその土地で育てられた食材が適していることを、もっとたくさんの方に知ってほしいです。
17	奥州市はJAや地域の食改善グループ等との連携で、学校田での稲や豆の栽培から調理までの体験や産直での料理体験、学校給食での奥州食の特別献立など子どもの食育には配慮されていると思います。
18	世界全体を見た食料事情をもっと知る必要があるのではないかと思います。日本の食品自給率の低さを心配しています。
19	近年は特にSNSで極端な意見の情報やデマが増えていると感じます。県からは信頼できる情報の発信に努めて頂きたいをお願いします。
20	食品表示についてや、賞味期限と消費期限の違いについてなど、食の安全や安心について正しい知識を消費者にもっと周知してほしいです。
21	岩手県産は何も心配していないが、中国産とかになると心配です。表示内容も正しい情報なのか不安です。
22	テレビやネット等でみなさん情報は得ているように思います。
23	昔から地域で食べられていた料理は、素材が生かされていて、体にも優しく手間はかかるが、たくさん子どもたちに食べてほしいと思います。子どもが学校の調理実習でなべやきを作った際に、講師の方がくださったレシピのおかげで、自分ひとりで作ってみたいと言うようになりました。食を学ぶことで、興味を持つようになると思います。
24	食に対する関心を高める必要がある。児童・生徒よりも大人に対して呼びかけるほうが必要である。
25	食の大切さを痛感しています。もちろん年齢的な事もあり、自然指向、薄味で素材の特長の味を生かす調理法おやつも天然物を作り持ち歩き健康の恩恵を大切に思っています。
26	「食」することは生きるための大元であり、楽しみなことです。幼いころにどんな食べ物を、誰と(または誰に)、どんなふうに使わせてもらったのか、大人になって、幼い頃は苦手だった食べ物がいつの間にか大好物になっていることに気づくことがよくあります。安心、安全な食べ物だからこそ心も体も安定します。生産する側も、消費する側も互いに感謝し合い、食材を大切に取扱いしていきたいものです。また、第1次産業の自給率を上げる施策を強く期待します。
27	若い家族の方々は手作り料理が減っていることが心配です。
28	自分の健康に関して、食事の分量や栄養バランス等についてはよく考えることが多いが、食育全体についてはおろそかになりがちです。外国産の食べ物が安価ということも多いので、「安全」の視点にもっと注目したい。

29	地産地消とよく聞きますがそのとおりだと思います。その土地のその土地ならではの作物がある幸せをもっと広めて欲しいですし、本当の食育はそこから始まると思っています。
30	買い物の際、最初に値段を確認して安い方を選ぼうとするが、産地を確認するとほとんどが中国産であり、安全性について果たしてどこまで信用したら良いのか不安である。中国の食品加工に対する酷い扱いが公開されているが、どこまで信用したら良いのか、行政でしっかりと調査していただきたい。
31	食育ときくと未成年のイメージでしたが、郷土料理教室への参加でも大人の食育になるんだとアンケートを通じて考えさせられました。食の安全安心といっても自分で作物を生産していないので、販売店で購入するしかないですし、それを食べるしかない消費者は安心より低価格のものを選ぶしかないので、生産者、販売者に安心安全を委ねるしかないと感じます。安心安全の岩手の食材のイメージが強いので、これからもイメージ通りの食であることを願っています。
32	我が国にとって、第一次産業は特に農業は担い手の高齢化により、耕作地が減少しているのが現状だと認識していて、もっと若手新規就農者が就農しやすい環境の整備を整えていくことが重要と考える。まずは、農業の未知なる可能性を熟知してもらい、就農者が興味のある作物なりを数年で見つけ、地域ぐるみでバックアップできれば生活基盤も安定していけるのではないかと思う。農家が学校の生徒さんと食育授業をやっているが、若い親(夫婦)と子どもの親子でシーズンを通して、体験、収穫できる農園や施設が充実すると良いと思う。
33	子供の頃から食育教育が大事だと思う。
34	食品の賞味期限に近いものを廃棄することなく、無駄なく有効に活用する工夫をしてほしい(値引き販売、フードバンク寄付や積極的推進など)。
35	中国原産(原料)の食物は、できるだけ購入しないようにしている。米は基本的に玄米を食するようにしている。
36	汚い土から育てた作物は人に悪いため、調査を徹底願います。
37	スーパーのチラシで「毎週特売日POINT10倍」などに目を奪われますが、きちんと「さあにぎやかにいただく」10食品群チェックしながら、自分の健康のためを考えて買い物をしている。行政でも岩手の行事、食の再現にしても手抜きなしで企画実行してほしい。子供達にその良さを伝えたい。長野駅ビル内に「長寿食堂」があり、長野の食文化の発信にとっても感動しました。盛岡でもわんこそば、冷麺などがありますが、食堂でやってほしい。
38	日々の生活で、各自が関心を持って生活していく、各自の心がけ次第で大なり小なり良い方向へ向かって行くのではないかと思います。
39	東北の管理栄養士を養成する大学と連携してみたいかどうかがでしょうか。
40	三世代家族の嫁として、いろいろおそろいながら伝統を守ってきました。
41	毎日食べる物は大事であり、家計にも繋がっている。残飯を追肥にするコンポストを利用している。季節の物を食べないと思い、毎年、あけび、銀杏、栗、くるみ等を拾って食べている。
42	信じたいと思うが、他県で食の話があがると岩手県もではないかと不安になります。
43	手づくりの食事が段々にすたれ、惣菜や冷食が増えていると思う。産直でももっとだし易くする取組があると良いと思う。
44	昨年大量に出回っていた備蓄米に、何年度産かの表示がなかったのが気になった。

45	最近産地偽装の話題が以前より少なくなったように感じます。関係機関の監視指導が行き届いたのか、消費者の購入スキル(安全安心の食材選び、関心度)が向上したのか、いずれにしても消費者は表示を信用し購入しています。明らかに偽装となれば重罰が課せられて当然であるため、今後も監視強化を切望します。
46	産地偽造や消費期限偽造など、消費者を騙すような生産者や業者は厳罰に処してもらいたい。
47	近年、県内の製造業者でも食品添加物の偽装問題が起こったりしているので、行政での監視、検査を強化したり、公益通報の受付をしやすくするなどの取り組みを期待します。また、食育で「早寝・早起き・朝ごはん」を子供たちにきちんと意識づけしてほしいです。
48	子育てをしていた頃は食育にも興味があって取り組んでいましたが、大人だけの暮らしになってからは日々の生活に追われて興味がなくなっていると感じました。食べることは生きること、また考えて実践していかないとけないと改めて思いました。
49	日常生活を健康に過ごすために、食品については、賞味期限や品質などに気をつけて購入するなど、基本的な食習慣を心がけている。
50	私自身は食の安全安心には強く関心があり、原材料の表示は必ず確認をして購入しているが、スーパーや量販店で販売しているものは、未だにかなりの添加物を使用している商品ばかりで、購入を躊躇することもしばしばです。日本は海外に比べて化学的な添加物の使用量が多いと聞くため、もっと厳しく設定をして、がん等の発生を減らす努力をしてほしい。また孫たちが食べたがる食品や菓子などは、さらに食品添加物が多く見受けられる。一切買わないのは不可能なので、孫世代の将来の健康に不安を感じている。
51	郷土料理と言われてきたものを作る人たちが、どんどん少なくなっていると思います。地元の食材を使っている郷土料理は、食育にもつながるし、食の安心安全を考える機会にもなると思います。
52	積極的に県産の食べ物を食べたいとは思っているが、どうしても肉類などは価格で選べないことがあります。
53	興味が無いわけではありませんが、イベントや活動等に出掛けるのが時間がない人、苦手な人もいる訳で、自宅で情報が得られる手段があると助かります。
54	公共施設職員という仕事柄、食育についての施設利用の団体が多く、皆さんの関心の高さが伺えます。
55	何となく安い食品を選んでいましたので、ラベルをしっかり確認し、県産品を積極的に取り入れたいと思います。
56	管理栄養士として働いています。食育についてはまだまだ県民へ周知できていないのではと感じることがあります。子供たちの他、親の世代への食育の周知が必要と思われます。
57	年代によって食は変わっていくものなので、今の年代に必要な食への取り組みが具体的にわかるような情報があればいいと思う。例えば、広報にあったが、市販のスープや味噌汁は塩分濃度が高いから注意が必要など。
58	食の安全、安心は子どもから大人まで幅広い年代で取り組む必要があります。
59	できるだけ県産品を購入し、農薬などに配慮したものを選んでいますが、ただ、そうすると割高になり、今の物価高ではさらに負担が増えて厳しい状況です。岩手県は農産物、海産物が豊富かつ安全なものが多いと信頼しています。
60	添加物の少ない食品は安心ではあるが値段も高めであり、小袋にすると野菜は産直などではやっていますが、食の安全な知識を勉強する必要があると感じています。
61	本人が大事なことだと思わない限り、行政があの手この手行使してもなかなか実を結ばないのではないのでしょうか。
62	食育の講習会などに気軽に参加できる機会があればいいと思う。